

行事の
聴く
お話

梅雨

春がすぎて、六月ごろになると、雨の日が増えますね。ポツポツ、ピチャピチャ、ザーザーザー…、雨がたくさん降るこの時季を「梅^つ雨^ゆ」と言います。

雨の日が増えるのは、日本の空の高いところで、暖かい空気と冷たい空気がおしくらまんじゅうみたいに押し合うから。すると、空にむくむくと雲ができて、雨が降り出すのです。

パツと傘をさして雨の中を歩いたり、水たまりを見つけるのも楽しいですね。

「梅雨」が終わったら、夏が来ますよ！

(おしまい)

● 聴くお話は、耳で聴いただけで、様子を思い浮かべたり、内容を理解したりするお話です。小学生になっても必要とされる、「話を聴いて理解し、考えたり行動したりする力」を育てます。行事の導入や、ちょっとした空き時間にぜひ活用ください。

